

借りぐらしのまち

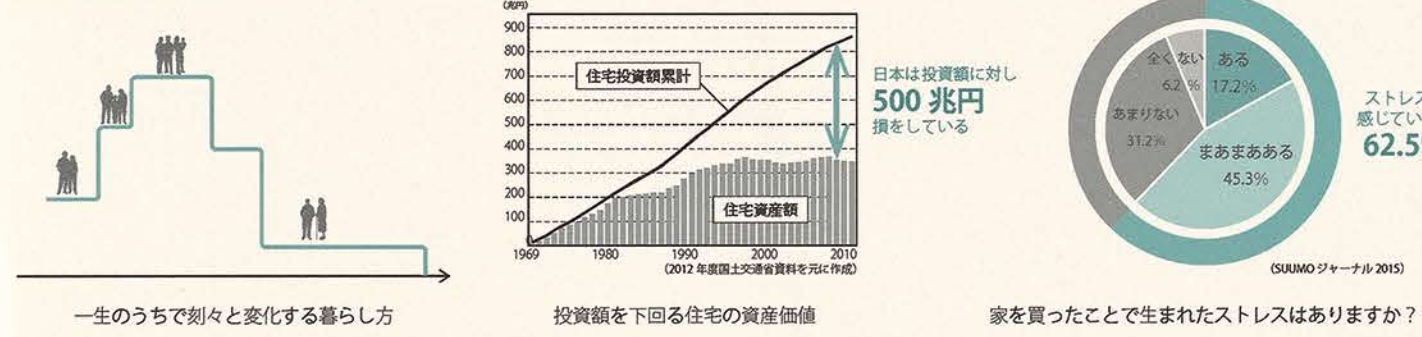
“家”は人が最も長い時間を過ごす安らぎの場である。
しかし、マイホームを持つことが現代人の心を脅かしていないか。
高い家賃や住宅ローンを払い続けるために生きてきた現代人の心に、安らぎを取り戻したい。

新たに住宅を作るのではなく、既存の空き部屋を利用し、生活の変化に合わせて自由に“家”を持つ新しい暮らし方。
家族が集まる部屋、個々人の趣味を広げる部屋、地域の人とつながる部屋...
一つの家を飛び越えて、街にあふれる自由な暮らしが人々の心を豊かにしていく。



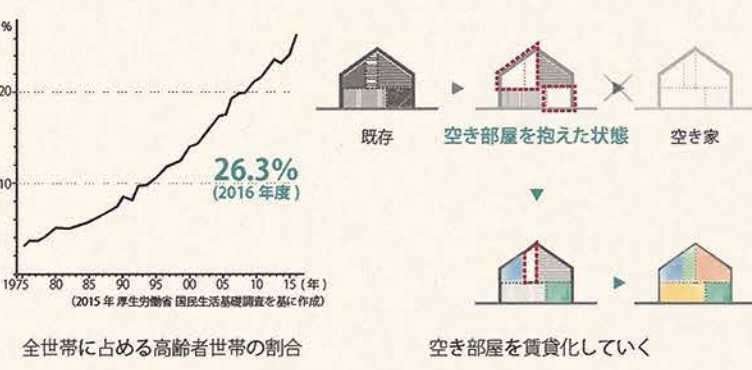
01. 「夢のマイホーム」は本当に幸せか

マイホームを持つことはかつてのように幸せの象徴と言えるのだろうか。住空間は本来、ライフスタイルの変化に徐々に対応していくべきである。しかし、nLDKにより規格化された日本の住空間は、暮らしや社会の変化に追従できていない。また、長い返済期間を経て住宅ローンを無事に返済できても、投資額に対して資産価値が大幅に低いといった経済性の問題は、住まいの心に大きなストレスを与えている。より家族ひとりひとりと、暮らしの変化のひとつひとつに合わせて経済的に小単位の空間を持つことで人や社会に柔軟に対応する、新しい生活像を提案できないだろうか。



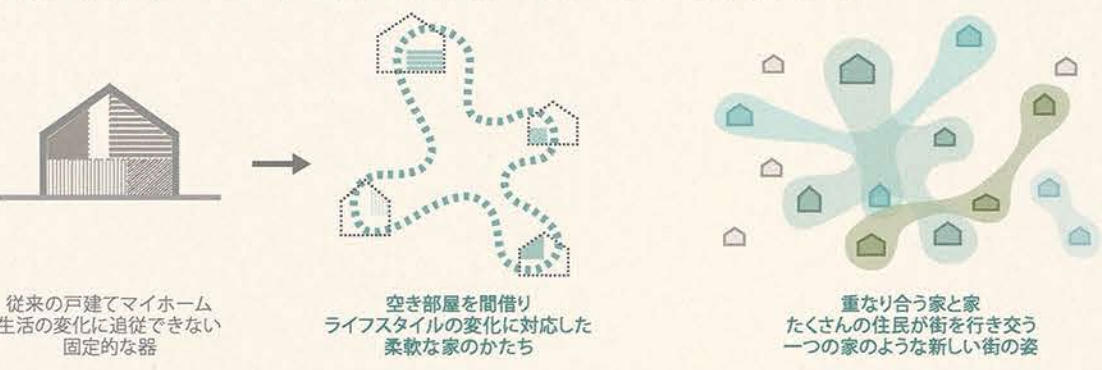
02. 住宅街に潜む空き「部屋」

全国的に増加傾向にある空き家だが、その背後には高齢者のみの住む世帯など、空き家化の前段階にある空き家（空き部屋）が多く潜んでいる。ここでは、それら空き家（空き部屋）の活用について、戸建て住宅の空き部屋を賃貸化、生活の場として提供する。



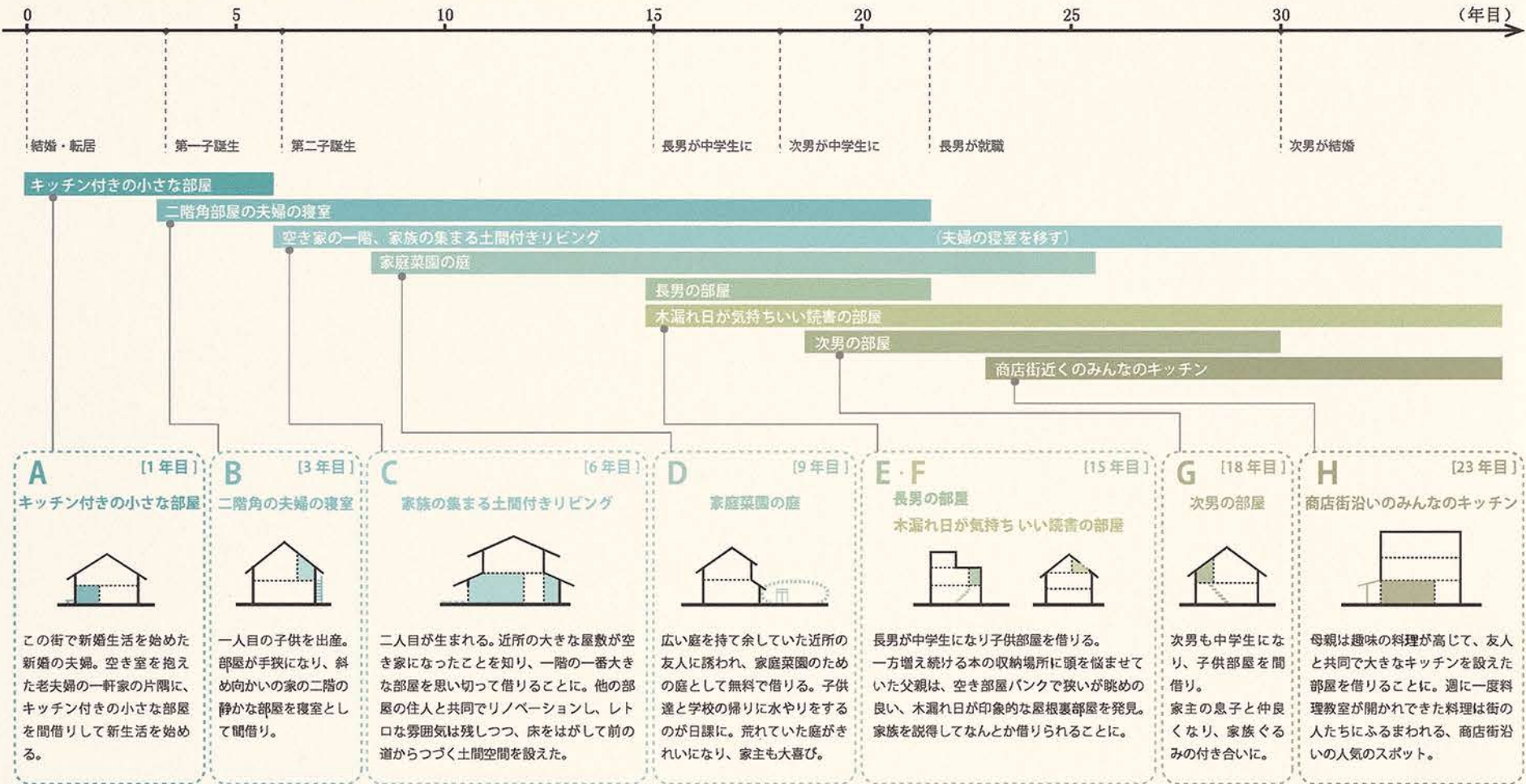
03. 離れてつながる新しい暮らしのかたち

借主はライフスタイルの変化に応じて、必要な時に必要な部屋を安く借りることができる。また、今まで同じ家で一緒に住んでいた家族も、別々の家に部屋を間借りすることになれば、離れながらもつながることができ、今までなかった生活の豊かさを見つけることができるかもしれない。それによって、今までの家の枠を飛び出した家族と地域の関係が展開される。借りぐらしにより生まれるのは多様化に対応した柔軟な家のかたちである。



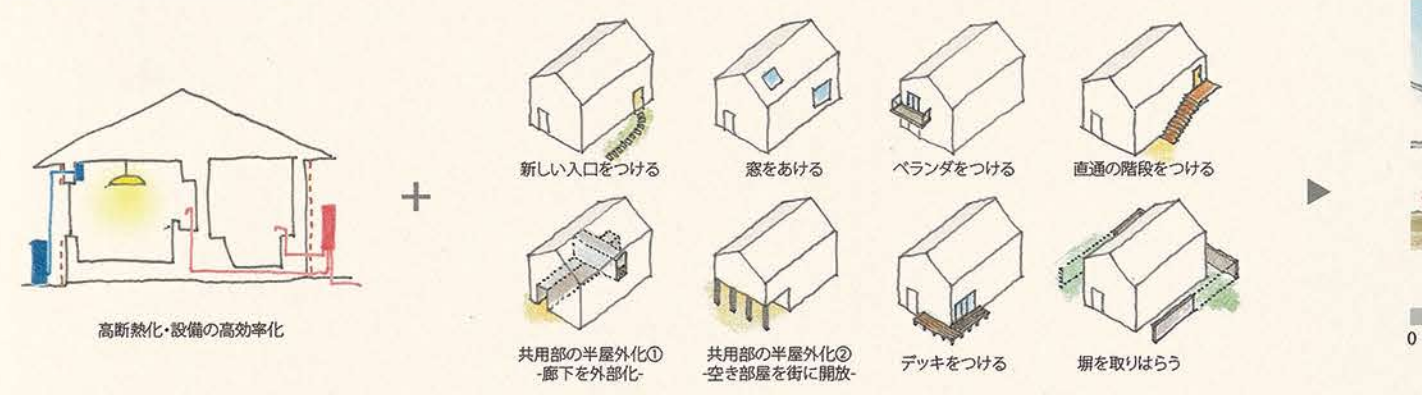
06. とある家族の借りぐらし

核家族を想定し、家族構成の変化に応じた間借りの住まい方の変化のケーススタディを行う。間借りによる生活を始めた夫婦が、子供の誕生や交友関係の広がり、新たな趣味の発見といったライフスタイルの変化に応じて思い通りに部屋を間借り・改修し自分の部屋を街に広げていく。



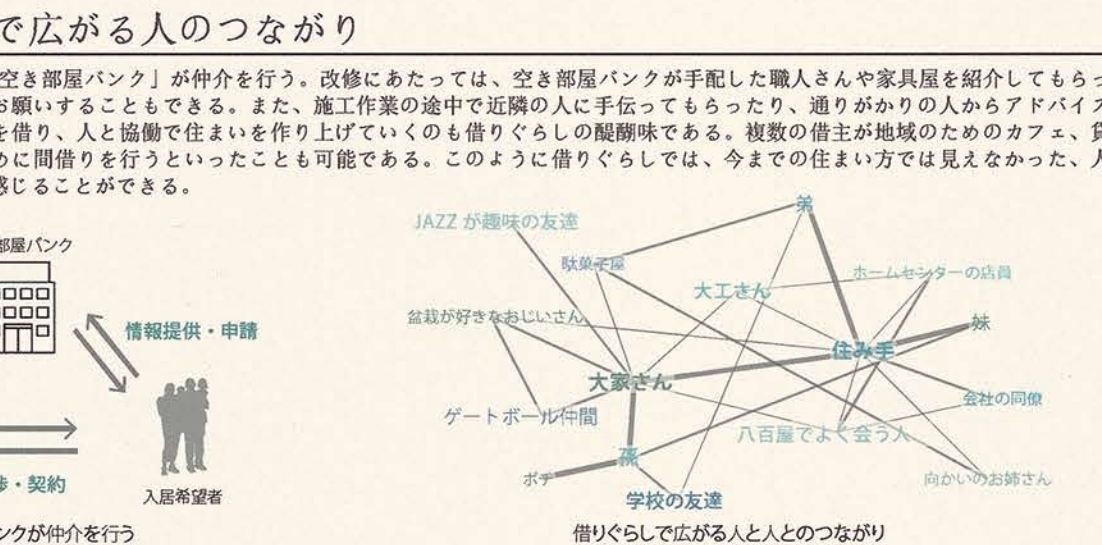
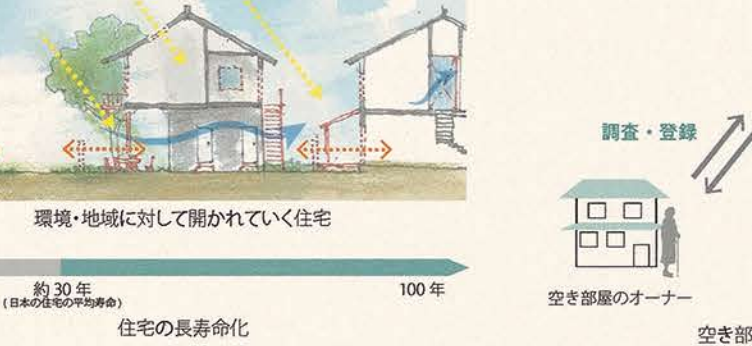
04. 賃貸化の手法 - 環境に開かれていく住宅街 -

住宅の賃貸化にあたり、家主は高断熱化・設備の高効率化といった基本的な環境性能の向上を行う。それと並行して既存の廊下・階段の半外部化、専用階段・窓・扉などの設置を行う。借主も、家主との契約の範囲内であれば内装を自由に改修することが可能である。このような操作によりボーズ化していく住宅には風が流れ、光が通り、緑が入り込むことで内外の境界があいまいになっていく。これにより、住宅の長寿命化が期待される。



05. 借りぐらしで広がる人のつながり

空き部屋を賃貸化する際は、「空き部屋バンク」が仲介を行う。改修にあたっては、空き部屋バンクが手配した職人さんや家具屋を紹介してもらったり、サポート業者の手配をお願いすることもできる。また、施工作業の途中で近隣の人に手伝ってもらったり、通りがかりの人からアドバイスを貰うこともある。人の助けを借り、人と協働で住まいを作り上げていくのも借りぐらしの醍醐味である。複数の借主が地域のためのカフェ、貸し倉庫といった協働利用のために間借りを行うといったことも可能である。このように借りぐらしでは、今までの住まい方では見えなかった、人とのつながりといったものを生み出すことができる。



07. 変化しながら住みつがれていく住宅

